

第1学年音楽科学習指導案

令和5年2月1日（水）5校時

1 題材名 アーティキュレーションを工夫して表現豊かなアンサンブルにしよう

2 題材について

(1) 生徒の実態

明るく元気で反応のよい生徒が多い。歌唱の授業では大きな声の発声練習から始まり、打楽器を使った創作の授業では音をたくさん試して鳴らして喜び、鑑賞の授業では自分の感受したことを積極的に発表するなど、主体的に音楽活動を楽しみながら学習に取り組んできた。

以下は事前に行ったアンケートの結果である。

Q1. リコーダーの授業や演奏は好き（得意）ですか。また、その理由は何ですか。

好き（得意）・・・41%

楽しい、色々な音が出せる、達成感がある、楽器演奏で伝えられるのがよい

嫌い（苦手）・・・59%

指遣いが難しい、うまく音が出せない、息のコントロールが難しい、違う楽器の方が楽しい、間違えると恥ずかしい

Q2. リコーダーで演奏する音楽をよりよくするために、どのような工夫や注意をしていますか。

指遣いをしっかり覚える、穴をしっかり押さえる、息のコントロール、タンギング、構え方、持ち方、姿勢、指を見ない、焦らない

この結果から、①リコーダーが苦手な生徒が多いこと②リコーダーを間違えずに正しく演奏できるように意識しているが、イメージをもったり、音楽の構造を考えたり、他者の音をよく聴いて合わせたりしてリコーダーを演奏するところまでの意識はほとんどしていないということがわかった。この実態を考慮し、苦手な生徒が少しでも主体性を持って取り組めるような授業展開や教具の工夫、表現豊かな演奏にするための創意工夫を考えることができる授業展開を行う。

(2) 題材について

本題材は、初めてアルトリコーダーに触れるため、親しみやすいアメリカ民謡「聖者の行進」を扱う。この曲は、17世紀頃アフリカから連行され強制労働させられていた黒人たちが自分たちの固有のリズムに乗せて自然発生的に歌い始めたものと言われている。黒人たちが多く住んでいたニューオーリンズでは、人が亡くなると葬儀場から墓地までは静かな讃美歌を演奏し、埋葬が終わると一転して明るい曲を演奏して家路につく風習があった。奴隷から解放されて天国へ行くことはおめでたいこと、だからこそ明るい曲で送り出そうとこの曲が演奏されるようになった。また、ルイ・アームストロングが演奏したことによってジャズのスタンダードナンバーにもなっている。そのような背景も意識して、他者とイメージや感情などを共有する活動、他者と協働しながら音楽的な見方・考え方を働かせる活動の中で試行錯誤して器楽表現の創意工夫を考えさせたい。

指導に当たっては、様々な感受の仕方があってよいこと、それらを表現するため

になじみのある t u のタンギング以外にも求める音に応じて d u (柔らかい音)、r u (さらに柔らかい音) などの工夫ができること、4種類のアーティキュレーション(スタッカート奏法・ノンレガート奏法・ポルタート奏法・レガート奏法)の使い方によって様々に音楽の雰囲気を作り出せることを理解させたい。そして、それらをペアで合わせたり、タブレットに録画して客観的に聴いてみたり、他のペアと聴き合っただバイスしたりし、試行錯誤しながら創意工夫することの楽しさを味わわせたい。また、最後の発表会では、様々に工夫された音楽を聴き合うことで、個々の音楽性を認め合うことも大切にしたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では学習指導要領の A 表現 (2) 器楽ア、イ (ア)、ウ (ア) (イ) を指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わり及び曲のルーツやジャズ音楽などの曲の背景を理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 「聖者の行進」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) ソプラノリコーダーとの違いを体感し、器楽表現を創意工夫することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的にアルトリコーダーの学習活動に取り組む。〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

器楽：「喜びの歌」(ベートーヴェン)「聖者の行進」(アメリカ民謡／浦田健次郎編曲)
鑑賞：「聖者の行進」(ジャズバージョン)

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア	器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること
	器楽イ (ア) 器楽ウ (ア)	曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること。
	(イ)	創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けること
〔共通事項〕	ア	リズム・旋律・テクスチャ
	イ	拍子・フレーズ

具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーの運指や息の使い方を習得する。 ・タンギングやアーティキュレーションなどを創意工夫し、表現豊かに演奏する。 ・他者の音や演奏の仕方をよく聴き、合わせて演奏する。
----------	---

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知曲想と音楽の構造との関わり及び曲の背景を理解している。</p> <p>技創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。</p> <p>技創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。</p>	<p>思曲想と音楽の構造との関わり及び曲の背景から知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態器楽表現を創意工夫することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的にアルトリコーダーの学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（5時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点	知・技	思	態
			〈評価方法〉		
1	<p>◆アルトリコーダーの基礎を身に付けるとともに、ソプラノリコーダーとの違いに関心をもつ。</p>	<p>○演奏するために必要な基礎を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢と構え方を確認する。 ・息の使い方やタンギングを身に付ける。 ・運指表を使い、ド～ソの運指を覚える。 ・ペアで運指の問題を出し合い、教え合う。 ・「喜びの歌」を演奏する。 			
	<p>○運指表は単元をとおして、適宜活用する。</p> <p>○学習した姿勢や運指、息の使い方やタンギングを生かす。</p>				

2	<p>◆創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法を身に付ける。</p> <p>○創意工夫するために必要な奏法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンギングやアーティキュレーションに種類があることを確認する。 ・タンギングやアーティキュレーションを変えて「喜びの歌」を演奏する。 	<p>○実際に試して音が変わることを感じ取る。</p> <p>○音楽の感じが変わることを感じ取る。</p>	思	〈ワークシート〉	
3	<p>◆曲想と音楽の構造との関わり及び曲の背景を理解するとともに、他者の音を聴きながら合わせて演奏する技能を身に付ける。</p> <p>○音楽の構造や背景を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聖者の行進」の背景について理解する。 ・階名で歌った後、自分のパートを練習する。 ・旋律が掛け合いになったりそろったりすることや、旋律の役割を理解する。 <p>○ペアの音を聴きながら合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の掛け合い、旋律の役割などを感じながらペアと合わせる。 ・他のペアと組になり、タブレットで録画したり、アドバイスをしたりする。 	<p>○音楽の構造を理解させる。</p> <p>○始める時の息づかいやアイコンタクトなど、アンサンブルに必要な技能も理解させる。</p> <p>○役割に合わせて強弱のバランスにも注目させる。</p> <p>○アドバイスカードを活用する。</p>	知・技	〈観察・ワークシート〉	
4	<p>8 本時の学習指導について（4／5時）を参照</p>		思	〈観察・ワークシート〉	↓

◆知識や技能を生かし創意工夫した演奏をするとともに、音楽活動を楽しむ。				
5	<p>○ペアの音や演奏の仕方をよく聴き、合わせて演奏する。</p> <p>○ペアの音や演奏の仕方をよく聴き、合わせて演奏する。</p> <p>・ワークシートの楽譜に表現したい音楽のイメージやアーティキュレーションなどの創意工夫を記入し、演奏時に提出する。</p> <p>・どのようなイメージを表現するためにどのような演奏の工夫をしたのか述べてから、演奏をする。</p>	<p>○様々な感受や表現があり、その楽しさや奥深さを味わわせ、それぞれの音楽性を認め合う雰囲気を作る。</p> <p>○提出されたワークシートを見ながら演奏を観察する。</p>	知・技 （観察・ワークシート）	態 （観察・ワークシート）

8 本時の学習指導について（4 / 5 時）

(1) 目標

- ・曲想や音楽の構造が生み出す特質や雰囲気を感じながら、タンギングやアーティキュレーションなどの器楽表現を創意工夫する。〈思考・判断・表現〉

(2) 展開

	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
導入	<p>○前時までの学習を確認する。</p> <p>・タンギング練習と音階練習をする。</p> <p>・ドレミファ ドンをする。</p> <p>・「聖者の行進」を通して演奏する。</p>	<p>○感染対策として、エアコン・扇風機の使用、換気、手指消毒、リコーダーの置き方を徹底する。</p> <p>○運指表を活用してもよいことを伝える。</p> <p>○前時に学習した、曲の構造や背景、役割などの確認をして演奏する。</p>
展開	<p>○本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">表現豊かなアンサンブルにするための演奏の工夫を考えよう</div> <p>・振り返りシートに本時の目標を記入する。</p> <p>○表現豊かなアンサンブルにするためにはどのような工夫ができるか考える。</p> <p>①イメージをもつ</p> <p>・「○○な聖者の行進」「聖者の行進～△△～」のように、表現したい音楽の雰囲気を表す言葉をペアで考える。</p>	<p>○表現したい音楽のイメージをもたせ、ペアで共通理解できるようにする。思い浮かばない生徒には、例を示し、考えをもたせられるようにする。</p>

<p>展開</p>	<p>②演奏の仕方を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2時で学習したタンギングやアーティキュレーションの仕方が生かせることに気付く。 ・全員で曲の冒頭部分を4つのアーティキュレーションで演奏する。 <p>○表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したい雰囲気や音楽になるようにタンギングやアーティキュレーションなどの演奏の工夫を試して吹きながら考える。 ・他のペアと組になってアドバイスをし合い、創意工夫を繰り返す。 ・代表のペアが発表し、全体で共有する。 	<p>○アーティキュレーションは組み合わせられることも伝える。</p> <p>○アーティキュレーションはワークシートの楽譜に記入させる。正確さにこだわらず自分たちの表現したい音楽にするためのメモをとらせる。</p> <p>○アドバイスカードを使うことにより、相手の演奏を聴いた時に感じたことを明確化させる。また、アドバイスカードを蓄積することにより、今後の演奏に生かせるようにする。</p> <p>○四分音符だけでなく、二分音符などの伸ばす音もアーティキュレーションを付けることができることも伝える。</p> <p>○工夫がうまく考えられないペアが多ければ、模範CDを聴かせヒントを与える。</p> <p>○タンギングやアーティキュレーションの工夫ができていたら、強弱の工夫にも気づかせる。</p> <p>☆思〈観察・ワークシート〉 曲想や音楽の構造が生み出す特質や雰囲気を感じながらタンギングやアーティキュレーションなどの器楽表現を創意工夫している。</p>
<p>終末</p>	<p>○本時の学習を振り返り、次時に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを記入する。 	<p>○最初の演奏と比べてどのように豊かになったのかを交えながら記入させる。</p> <p>○感染対策として、リコーダーの手入れ、手指消毒を徹底して行う。</p>

9 本時の板書計画

目標	表現豊かなアンサンブルにするための演奏の工夫を考えよう
教材	「聖者の行進」 ①イメージをもつ ・○○な聖者の行進 ・△△の□□な聖者の行進 ②演奏の仕方を工夫する ・タンギング ・アーティキュレーション

10 ワークシート（本時） *別紙（当日配布）